

2026年4月17日

## オーストラリアの3月雇用統計は堅調が続く(Asia Weekly (4/13~17))

～原油高にルピー安も重なり、インドの3月インフレ率は前年比+3.4%に加速～

経済調査部 主席エコノミスト 西濱 徹

(Tel: 050-5474-7495)

(経済指標の振り返り)

発表日	指標、イベントなど	結果	コンセンサス	前回
4/13(月)	(インド)3月消費者物価(前年比)	+3.4%	+3.5%	+3.2%
4/14(火)	(シンガポール)1-3月実質GDP(前年比・速報値)	+4.6%	+5.9%	+5.7%
	(中国)3月輸出(前年比)	+2.5%	+8.6%	+21.8%
	3月輸入(前年比)	+27.8%	+11.2%	+19.8%
4/15(水)	(韓国)3月失業率(季調済)	2.7%	--	2.9%
	(フィリピン)2月海外送金(前年比)	+2.6%	--	+3.5%
4/16(木)	(オーストラリア)3月失業率(季調済)	4.3%	4.3%	4.3%
	(中国)1-3月実質GDP(前年比)	+5.0%	+4.8%	+4.5%
	3月小売売上高(前年比)	+1.7%	+2.3%	+2.8%
	3月鉱工業生産(前年比)	+5.7%	+5.5%	+6.3%
	3月固定資産投資(年初来前年比)	+1.7%	+1.9%	+1.8%
4/17(金)	(シンガポール)3月非石油輸出(前年比)	+15.3%	+10.3%	+4.0%
	(マレーシア)1-3月実質GDP(前年比・速報値)	+5.4%	--	+6.3%
	3月消費者物価(前年比)	+1.7%	+1.7%	+1.4%

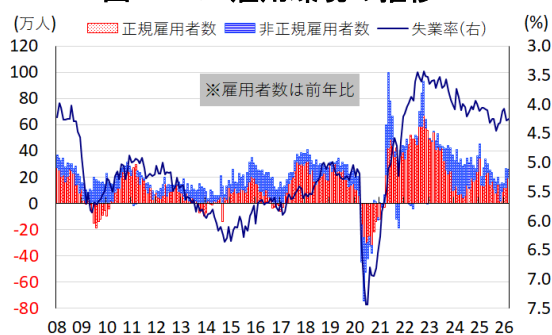
(注) コンセンサスは Bloomberg 及び THOMSON REUTERS 調査。灰色で囲んでいる指標は本レポートで解説を行っています。

## 【オーストラリア】～中東情勢の懸念にもかかわらず、正規雇用者を中心に雇用環境は底堅さが続く～

16日に発表された3月の失業率(季調済)は4.3%となり、前月(4.3%)から同水準で推移している。失業者数は前月比▲0.4万人と前月(同+3.6万人)から2ヶ月ぶりの減少に転じている。雇用形態別では、正規雇用に対する求職者数(前月比+0.5万人)は2ヶ月連続で拡大する一方、非正規雇用に対する求職者数(同▲0.8万人)が3ヶ月ぶりの減少に転じたことが全体を下押ししている。一方の雇用者数は前月比+1.8万人と前月(同+5.0万人)からペースは鈍化しているものの、4ヶ月連続で増加している。雇用形態別では、非正規雇用者数(前月比▲3.5万人)は2ヶ月ぶりの減少に転じているものの、正規雇用者数(同+5.3万人)は2ヶ月ぶりの増加に転じるとともに、雇用者数全体を押し上げている。地域別では、第2の都市メルボルンを擁するヴィクトリア州で減少しているものの、最大都市シドニーを擁するニュー・サウス・ウェールズ州や第3の都

市ブリスベンを擁するクイーンズランド州で拡大しているほか、資源関連産業が集積する西オーストラリア州でも堅調な動きが確認されている。中東情勢の緊迫化による原油高は、マクロ面で同国景気を押し上げることが期待される一方、物価上昇や供給懸念による物資不足を招くことが懸念される。にもかかわらず、労働力人口は前月比+1.4万人と4ヶ月連続で拡大している。労働参加率は66.8%と前月（66.9%）からわずかに低下しているものの、歴史的な高水準で推移している。

図1 AU 雇用環境の推移



(出所)CEIC より第一ライフ資産運用経済研究所作成

**[インド]～中東情勢の緊迫化による原油高、ルピー安の進展も重なり、インフレ率は加速の動きを強める～**

13日に発表された3月の消費者物価は前年同月比+3.4%となり、前月（同+3.2%）から加速したものの、RBI（インド準備銀行）が定めるインフレ目標（ $4 \pm 2\%$ ）の中央値を下回る伸びが続いている。前月比は+0.26%と前月（同+0.11%）から上昇ペースが加速しており、中東情勢の緊迫化を受けた原油高を反映してエネルギー価格が上昇しているほか、生鮮品をはじめとする食料品価格も上昇しており、生活必需品を中心にインフレ圧力が強まっている。なお、食料品とエネルギーを除いたコアインフレ率は前年同月比+3.36%となり、前月（同+3.41%）からわずかに伸びが鈍化している。前月比も+0.15%と前月（同+0.30%）から上昇ペースは減速している。エネルギー価格の上昇にもかかわらず、輸送コストは落ち着いた推移をみせている。金融市場におけるルピー安の進展を受けた輸入物価の押し上げにより財価格が上昇する動きがみられる一方、サービス物価は落ち着いた動きをみせており、インフレ圧力は部分的なものにとどまっている。

図2 IN インフレ率の推移



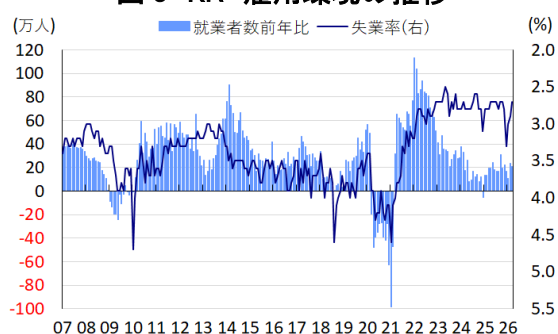
(出所)CEIC より第一ライフ資産運用経済研究所作成

**[韓国]～失業率は低下も、中東情勢緊迫化による雇用悪化を警戒した労働市場からの退出が影響か～**

15日に発表された3月の失業率（季調済）は2.7%となり、前月（2.9%）から0.2pt改善して

いる。失業者数は前月比▲7.8万人と前月（同▲2.1万人）から3ヶ月連続で減少しており、中期的な基調も減少傾向で推移している。年代別では、50代は唯一増加しているものの、60代以上の高齢層のみならず、若年層から働き盛り世代まで全体的に減少している。一方の雇用者数は前月比▲0.1万人と前月（同+14.0万人）から3ヶ月ぶりの減少に転じており、拡大の動きに一服感が出ている。年代別では、30代や40代で拡大しているものの、50代や60代以上の高齢層を中心に減少するとともに、20代など若年層も減少している。雇用形態別では、非正規雇用を中心に幅広く減少している。雇用形態別では、非正規雇用を中心に幅広く減少している。労働力人口も前月比▲0.8万人と前月（同+1.2万人）から2カ月ぶりの減少に転じており、幅広い年代で労働参加率の低下がみられるほか、労働参加率も64.8%と前月（64.9%）から0.1pt低下している。

図3 KR 雇用環境の推移

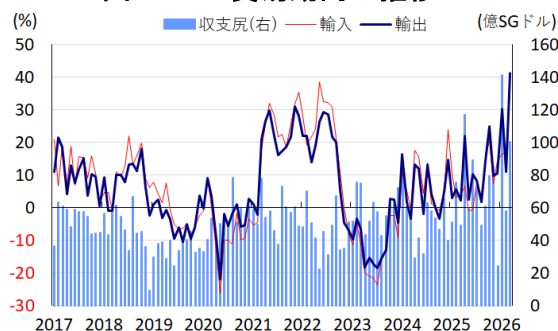


(出所)CEIC より第一ライフ資産運用経済研究所作成

### [シンガポール]～中東情勢緊迫化の影響が懸念されたものの、輸出入ともに月次ベースの過去最高更新～

17日に発表された3月の非石油輸出額は前年同月比+15.3%となり、前月（同+4.0%）から伸びが加速した。ただし、前月比は+2.98%と前月（同+3.92%）から3ヶ月連続で拡大しており、単月ベースの輸出額は過去最高を更新している。財別では、主力の輸出財である半導体など電子部品関連、電動バルブなど電気機械関連、化学製品関連のほか、食品など軽工業関連など幅広い分野で輸出が拡大している。石油関連を合わせた総輸出額は前年同月比+41.2%となり、前月（同+11.0%）から伸びが加速している。前月比も+20.7%と前月（同▲9.9%）から2ヶ月ぶりの拡大に転じており、単月ベースの輸出額も過去最高を更新している。一方、輸入額は前年同月比+35.5%となり、前月（同+16.5%）から伸びが加速している。前月比も+11.7%と前月（同+0.7%）から4ヶ月連続で拡大しており、単月ベースの輸入額も過去最高を更新している。中東情勢の緊迫化を受けた原油高を反映して、原油や天然ガスなどエネルギー資源関連の輸入額が押し上げられるとともに、輸出の堅調さを追い風に電気機械関連、化学関連など幅広い分野の輸入も堅調に推移している。結果、貿易収支は+100.11億SGドルと前月（+58.05億SGドル）から黒字幅が拡大している。

図4 SG 貿易動向の推移

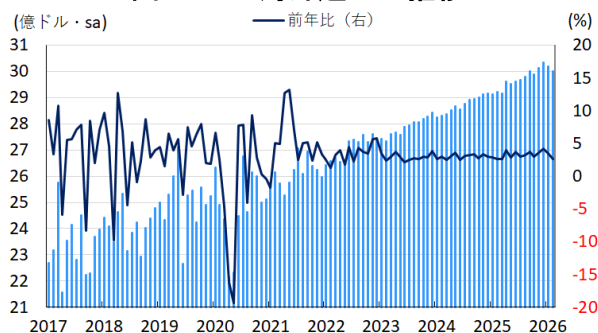


(出所)CEIC より第一ライフ資産運用経済研究所作成

**[フィリピン]～米国やアジア、中東からの移民送金下振れ、2月はペソ安一服でペソ建て換算値も下押し～**

15日に発表された2月の海外移民労働者による送金流入額は前年同月比+2.6%となり、前月(同+3.5%)から伸びが鈍化している。当研究所が試算した季節調整値に基づく前月比は2カ月連続で減少し、中期的な基調も減少傾向に転じるなど変調の兆しが出ている。金融市場においてペソ安の動きに一服感が出ており、ペソ建て換算値に下押し圧力がかかりやすい状況が重なり、前月比の減少ペースが強まっている。全体の1割程度を占める欧州からの流入に底堅い動きがみられるものの、全体の4割を占める米国からの流入が頭打ちするとともに、アジアや中東からの流入が軒並み下振れしており、送金全体の増加を制約している。先行きは中東情勢の緊迫化を受けて、中東からの流入に一段と下押し圧力が加かることも予想されるなど、個人消費を下支えする移民送金の動向に不透明感が高まっている。

図5 PH 海外送金の推移



(出所)CEIC より第一ライフ資産運用経済研究所作成

以上